

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100124		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム北花山		
所在地	山科区北花山中道町109-12		
自己評価作成日	令和元年10月20日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2674100124-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝NHKの『みんなの体操』を実施し、筋力低下予防・転倒予防を行っております。転倒事故件数も少なく、ラジオ体操を始めから終わりまで覚えている方もおられます。天気の良い時は外に出て行う事もあります。
利用者一人ひとりの出来る事を継続できるよう、毎日の生活で家事を一緒に行っております。お昼のおやつはほぼ毎日手作りを出しております。一緒に作っていただく事もあります。おやつだけでなく、食事と一緒に作り味付けや野菜を切ることを続けていただけてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「その人らしい生活を支え、それぞれの力を発揮できる場所作りを目指します」との理念を大切に考え、利用者が高齢化し平均年齢が90歳を超える中でも個々のできる事を見極め、食事作りでは包丁を持ち食材を切ったり皮をむくことなどに携わってもらったり、外出の機会を増やしたり体操を定着させ活動的なホーム作りに努めています。長く勤務する職員が多く、サービスの向上に向けて意見を言い合える関係性が構築され、職員の意見や提案を実践できるようにカンファレンスで検討しながら取り組んでいます。おせち料理やちらし寿司、プランターで育てたミニトマトや茄子などを使い手作りの食事の提供や土用の丑の日には鰻などの季節料理をしたり、ケーキやクッキー、コンポート等のおやつを手作りすることもあり食べる事を楽しめるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念と事業所独自の理念を常に見えるところへ掲示し、ミーティング毎に唱和しています。	法人の理念の基「その人らしい生活を支え、それぞれの力を発揮できる場所作りを目指します」とのホーム独自の理念を作成し、リビングに掲示することで職員は意識して支援に当たっています。利用者のできる事を見極め、家事やレクリエーション活動などが行えるように職員間で話し合い支援することで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加は現状いけない状況ではありますが、年間行事の事業所で開催しておりますお祭り行事に地域の方をお招きし交流を図っております。	年に一度行うホームの祭りは近隣にポスティングを行い多くの地域の方の参加を得ており、ボランティアによる手品やクイズなどもあり交流を楽しんでいます。自治会に加入し回覧板や運営推進会議の際などに地域の情報を得て餅つき大会等できるものに参加しています。地域で行っている「山科健康体操」のボランティアに毎月ホームに来訪してもらうことが定例となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の中学生を対象にしたサポート講座に参加し、グループワークを通じて学生へのアドバイスや認知症についての話をして学習の手助けをしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括や民生員の方、ご家族と参加していただき、ご意見を反映しサービス向上に努めております。	運営推進会議は家族や民生児童委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催しています。利用者の状況や職員の異動、ホームの活動、事故等の報告を行い、意見交換をしています。会議の際に提供する資料について意見が出され個人情報に配慮した写真にする等、会議を運営に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括職員へ伝達・意見交換を行って、適宜協力を行えています。	介護保険制度上のわからないこと等は法人の担当者を通して市に問い合わせたり、運営推進会議の議事録を直接役所の窓口に持参しています。市から地域ケア会議や研修案内、感染症などの注意喚起を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本施錠は行っておらず、利用者が外を覗くこともケアと考えて対応しております。離床センサーを1名使用されており、手順に基づきアセスメント・家族同意後に実施しております。	法人による身体拘束についての研修が年に2～3回があり、受講した職員が伝達しています。運営推進会議の際に身体拘束ゼロに向けての対策委員会を行い、言葉掛けやセンサーの使用についても報告し話し合っています。日中玄関の鍵は掛けず外に行きたい様子の利用者には一緒に出たり気分転換を図る等拘束感のない暮らしへの支援に努めています。不適切な対応があれば都度注意したりカンファレンスで話し合っています。	

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に参加し、一般職員への伝達を行っております。また、管理者だけでなく、一般の職員も研修に参加できるよう勤務調整をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加し、管理者だけでなく一般の職員も研修に参加できるよう勤務調整をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改定時等必要に応じその都度家族へ説明・同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や顧客満足度アンケートの要望に記載された要望についてミーティングなどを通じ検討改善を図っています。	利用者の要望は日々の関わりの中で聞き、買い物に出かける等都度対応しています。家族には毎月手紙を送り利用者の様子を伝え、面会に来られた時もコミュニケーションを図り意見や要望を言いやすいよう配慮しています。法人によるアンケートも行い、職員の接遇についての意見が得られ職員間で話し合い改善に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや普段の相談時に出た案を基に職員全員で考え検討しております。	職員から出された意見は毎月行うミーティング時に話し合い、欠席の職員には話し合った結果を個々に伝えながら意見を聞いています。職員の意見から朝食のパン業者を変更したり利用者の状況を考えて業務改善や外出支援を増やすなどサービスの向上に活かしています。また年に2回個人面談を行ったり、日々コミュニケーションを図り意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年1回自己申告書を提出してもらい、その内容に沿って面談を行い職員の課題・今後の目標などを話し合い、確認をしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに、社内研修年間予定を全員へ伝達し、個々で受けたい研修を選出してもらい計画・調整をしています。力量にあわせて、外部の研修に推薦し、研修に参加できるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内・外研修に参加しております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常日ごろより利用者本人からの話しに着目しケアを行っています。不安などがある際はその都度解決に向けて対応します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や連絡時などご家族とかかわる際に、近況などをお伝えし、ご要望不安などあった際はその都度解決に向け対応します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員・管理者と面談に伺い情報や本人の様子言動などを観察し必要に応じ他サービスの検討を行い見極めてます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できると思われることは積極的に行いどのようにかかわればできるかを考え、その方の意欲に繋がるような関わりをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームだけの生活だけでなく、家族の協力も仰ぎ一緒に支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所や知人との関係が途切れないように、会話などを通じて支援をしています。	兄弟や親戚の来訪があった際は居室でゆっくりと過ごせるように配慮したり、一緒に出掛ける方もいます。以前に買い物に行っていた場所など馴染みの場所や人との関わりなどを聞くようにしており、行事や外出の際に馴染みの場所を通り昔話を懐かしむなどの支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性利用者のみであり、利用者同士も仲がよく過ごされていますので、一緒に外出したり、談笑したりと支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方についても、何かご相談などある際にはお気軽にご連絡いただけるようにお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話より、その方の望む暮らしや要望を聞き出し支援できるように努めています。	入居前に法人の相談員と管理者が自宅や病院等に出向き利用者や家族と面談し、生活歴や趣味嗜好、希望等を聞き思いの把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中で話を聞くように努め、利用者の言葉や表情からその真意を汲み取れるようカンファレンスで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族の話聞き、これまでの生活環境ができるだけ崩れないように配慮しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者・家族の意見を伺い、要望に添えるように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現行プランの評価後、本人・家族からの要望に基づきアセスメントを実施。職員や協力機関と意見交換を行いプラン作成を行っています。	利用者や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し、初回は3か月、以降は状況に応じて6か月～1年で見直し、期間の中間でモニタリングを行っています。見直しに当たっては再アセスメントを行い、利用者や家族の意向、看護師や主治医の意見、必要な方には理学療法士等の評価を受けカンファレンスで話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護日誌にて伝達を行い情報交換しています。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近所のスーパーに買い物に出かけてます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民によるボランティアなどを利用し機能訓練を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人および家族に決めてもらい、適宜連絡を取り合っています。	入居時に今までのかかりつけ医を継続できる事も説明していますが、現在は全員がホームの協力医の月2回の往診を受けています。週に1回の訪問看護師による健康管理を受け、体調不良時などは相談し対応しています。協力医の紹介で専門医への受診の際は職員が同行しています。また週に1回の歯科衛生士による口腔ケアや月に1回の歯科医による治療を希望や必要に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護にて情報共有をしています。また24時間連絡を取れるシステムがあり、適時指示を仰いで支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の相談員と連絡をとり、現状や今後の予定などを共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを実施した事はまだありませんが、入居時に説明を行なっています。訪問看護より必要に応じ研修の開催していただける協力体制があります。	入居時に重度化や看取りの対応指針にそってホームで支援できる範囲について説明しています。今までに看取り支援の経験はありませんが、できる限りホームで過ごせるよう食事形態に配慮する等の支援に努めています。事例があれば訪問看護師に研修を依頼して行う予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受け、対応できるように学んでいます。 マニュアルを設置し対応できるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度消防訓練を行なっています。	消防訓練は2か月毎に行い、内2回は消防署の立ち会いの下通報や初期消火、利用者も参加して避難誘導の訓練を実施しています。他の訓練では手順書を確認し、昨年は台風被害による停電があり近隣の同法人施設に避難した経験もあります。また水や食料などは3日分程の準備をしています。	地域との協力体制の構築に向けて訓練の際に案内をしたり運営推進会議の際に協力依頼をする等取り組まれてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いで言葉掛けをすることと、笑顔でいるように心がけています。	法人の接遇マナー研修を受け、利用者に失礼のない言葉掛けや対応を心がけ、不適切な対応があれば都度注意しています。カンファレンス時にサービスの質の向上について話し合うこともあり、職員の意識にも変化がみられています。また希望にそって入浴時等の同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、自己決定しやすい言葉掛けをするように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かくスケジュールは決まっていないので、居室で休まれるなど思い思いに過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、希望者にお化粧をするなどみだしなみに配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を相談したり、調理も出来る範囲で一緒に行なっています。	食材はスーパーに発注したり買い物に行き、その日の調理担当が献立を立てて、利用者にも食材の皮むきなどの下拵えに携わってもらい食事を作り職員も一緒に食べています。おせち料理やちらし寿司、土用の丑の日には鰻など季節料理をしたり、プランターで育てたミニトマトや茄子などが食卓に上がることもあり食事を楽しめるよう支援しています。またケーキやクッキー、コンポート等のおやつを手作りすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付け方やカットするサイズなど、個々に合ったかたちで提供しています。水分摂取量の把握が必要な場合は、チェック表を用いて共有しています。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科(希望者)と毎食後の口腔ケアにて清潔保持にとりこんでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄しやすい体勢や時間を把握して支援しています。	日々の記録から排泄パターンを把握し、個々のタイミングでトイレに行けるように支援しています。日々の支援の中やカンファレンスで意見が出され、排泄用品がその人の状況に合った物であるかや昼夜で種類を変えたり、支援方法を検討し自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を含む食品を提供したり、日中の運動により自然排便を促していますが、医師の指示のもと下剤を使用することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望される時間帯や温度など快適に入浴できるように支援しています。	入浴は週に2回を目処に午後の時間帯を基本に支援し、希望があれば午前中の入浴は検討する予定です。拒否する利用者はおらず、順番の希望を聞きながら一人ずつゆっくりと入浴してもらっており、ゆず湯や入浴剤を使用することもあります。また浴槽に入れない方には浴室や脱衣室の室温に注意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況を共有し、朝寝や午前中の日光浴など安眠に繋がるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに確認できるように薬情報をファイリングしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことややりたいことを中心に取り組んでもらっています。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は個別外出を予定していなかった為、お誕生日や採血の為の通院時などに希望を伺い、食事や買い物に出かけています。	散歩や買い物は天候や天気、希望にそって出かけ、ホーム前で洗濯物を干したり外気浴をする等日常生活の中で自然に外に出る機会が持てるよう支援しています。花見や紅葉狩りはドライブで2～3人ずつ行き、年に1～2度外食を兼ねた外出行事も行っています。また地域行事は可能なものに参加するようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常はトラブル予防のため事務所の金庫に保管しています。行事の時などに個別で買い物をされることはあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族協力のもと希望があれば電話をかけてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁画を作成・掲示し、季節をかんじてもらえるようにしています。	共有空間は利用者と一緒に作成した季節毎の貼り絵や行事毎の写真を飾り、季節を感じられるよう配慮しています。限られた空間の中でテーブルの配置を考えたり、廊下にソファを置き過ごす場所を選べるようにしながら居心地の良い空間作りに努めています。毎日換気や掃除を行い清潔を保ち、加湿器を設置し利用者の体感も聞きながら温湿度管理を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でひとりになれるスペースの確保は難しいため、気の合う方と同テーブルに配席し、リラックスしていただけるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具の持参やご家族様の写真を飾るなど落ち着ける空間作りを心がけています。	使い慣れた物や大切にしているものを持参してもらうよう伝え、タンスやテレビ、椅子、机、鏡台などの持ち込まれた家具を家族と相談しながら配置しています。家族の写真や遺影を飾ったり、化粧品や携帯電話など使っていた物を持参しその人らしい居室となっています。毎日の掃除は利用者自身でできる方は一緒に行い、清潔を保てるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな文字で“便所”と看板を作るなど、わかりやすいように工夫しています。		